

## 夏季教化研修会

愛知県神社庁は教化研修会が8月31日、真清田神社（一宮市）を会場として開催し、県下から77名が参加した。本研修会は本年度から向こう3か年の教化実践目標となる「家庭のまつりと地域のまつりの振興を目指して」を総合テーマとし、新時代に即応する教化体制を確実に実行するため、開催された。



午前9時半に真清田神社正式参拝の後、開講式に移り、小串和夫庁長が挨拶。「沢山の方々にお礼申し上げます。本研修会は教化実践の要点を理解し、神職の意識向上を図ることを目的として行われるのであるが、神宮奉賛の基本は家庭で氏神様と神宮大麻とをおまつりすることであるが、近年では神棚すらない家庭が増加している現状がある。ひとつでも多くの家庭に地域のおまつりすることが神宮奉賛につながってくるのではないかと。また神社界を取り巻く環境も少子高齢化・過疎化と厳しい状況におかれている、特に本県の過疎化対策にあたって先般委員会を開催したところである。地域のまつりの発展なくして振興はないと考えている。限られた時間ではあるが、研修での成果を得られるよう取り組んでいただきたい」との挨拶があった。続いて真清田神社宮司辰守弘氏が挨拶、研修に入った。

午前中の研修では会場である辰宮司を講師として「時は流れて」と題して講演があった。辰宮司は「これからの神職は神職自身が自ら考える存在にならなければ、将来そのものが危うい」として、先人からの学びを通じてGHQの占領施策から続く歪んだ我が国のあり方を如何に正していくか、辰宮司



ご自身の経験や豊富な読書量に裏付けされた知見が提示された。昼食後、國學院大學教授の阪本是丸氏による「近代的国家祭祀の形成に関する覚書—天皇の「祈り」の具現化としての体系的祭祀構築への道程—」と題し、天皇陛下の「おことば」に端を発する「讓位」をめぐる諸問題について学問的な観点から講演がなされた。阪本氏は一連の「讓位」に関わることは単に皇室制度上の問題だけでなく、天皇陛下・皇太子殿下ともに国民の安寧という「祈り」が第一のお務めであるとともに、「祈り」を継承することにより、皇室祭祀の継承につながることを強調し、我々神社界が正しい認識をもつことが重要であると述べられた。



引続き大須賀久人教化常任委員から、昨年11月29日・30日に神社本庁で開催された全国教化会議の報告があった。

最後にユマニテク短期大学教授の堀建治氏による「若年層に対する教化活動の具現化に向けて」のテーマのもと、講話がなされた。氏は大学教員の傍ら、神職として奉仕する観点から、新学習指導要領、大学入試制度の変革から、教化活動に必要な資質（「対話力」「受容力」「発信力」）について話がなされた。

閉講式では三浦教化委員長より受講者代表に修了證が手渡され、研修を締めくくった。

